

神道夢想流 日本杖道会会報

第26号

平成21年1月7日

編集・発行

日本杖道会

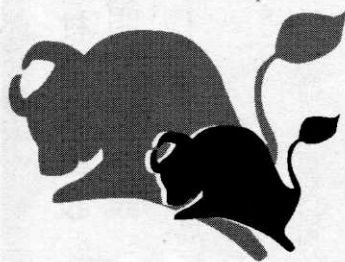
謹賀新年

新春を寿ぎ謹んでお慶び申し上げます。
さわやかな新春を迎え、喜びと実りある
目標に向って躍進しましょう。

今年も斯道発展のため一層のご支援ご教
導を賜りますようお願い申し上げます。

会員の皆様の益々のご健勝ご多幸を祈念
申し上げます、新年のご挨拶とします。

平成二十一年一月



日本杖道会
会長 神之田 常盛
役員 一同

平成二十年度

下半期の行事を終えて

事務局長 阿部 修

一連の行事に関して少し感想を述べて
みます。

まず、十一月三日に行われた三十周年
記念大会は、香取神宮、鹿島神宮の奉納
演武会並びに杖道基本を主として杖道の
古流の形及び付随武道の優秀演武者選考
会が行われました。

大会にはスウェーデン、アメリカの海
外参加者を迎えて約七十数名を数え、三
十周年記念大会に相応しいものでありま
した。

特に、約三百年間維持されている香取
神道流の宗家の道場を参観できましたこ
とは、海外の参加者のみならず私ども日
本人にとっても歴史の重さを感じる非常
に有意義なものでありました。

また、浪合神社奉納武道大会では「一
心流鎖鎌術歴代師範系譜記念碑建立」の
除幕式が催されました。傍には「一心流
鎖鎌術発祥の聖地」の記念碑も三年前に
建立されており、浪合の史跡として地元
の名所の一つになるであろうと信じてお
ります。

右記二件は、平成二十年の日本杖道会
の記念すべき行事として永く参加者の記
憶に残るものと確信いたします。

7月19日

第二十回東京都杖道大会
並びに第九回東京杖道祭

8月22日

杖道六、七段審査会

8月23、24日

杖道地区講習会

8月30日

神道夢想流 流祖祭

8月31日

第五十三回全国杖道大会

9月1日

流祖修研の地 宝満山登頂、
普池の窟参詣

9月20日、23日

鹿島神宮奉納演武並びに
居合・杖道合宿研修会

10月12日、13日

浪合神社奉納武道
並びに第七回各流武道演武会

10月19日

第三十五回全日本杖道大会

10月25日

第四十三回全日本居合道大会

11月1日、5日

平成二十年第二回杖道合宿研修会

11月3日

神道夢想流日本杖道会並びに
本部道場蔵脩館杖道会創立
三十周年記念演武大会

11月14日

居合道六、七段審査会

11月24日

第十四回関東甲信越居合道大会

12月20日

筑波山神社奉納武道大会

日本杖道会創設 蔵脩館杖道会開設

三十周年記念演武大会

十一月三日鹿島にて演武大会、内外から多数の参加者
武道の神を祭神とする鹿島神宮、香取神宮に参拝

十一月三日午前、鹿島神宮昇殿参拝、神宮道場にて奉納演武。午後、日本杖道会創設ならびに蔵脩館杖道会開設三十周年を記念し、演武大会が鹿島神武殿で、アメリカならびにスウェーデンから多くの古武道愛好者の参加もえて盛大に挙行された。

翌十一月四日、参加者一同打ち揃って創祀神武十八年(約二六六〇年前)国体の基を築き「武徳の神」と仰がれた香取神宮に昇殿参拝、神宮前の玉砂利を踏みながらそれぞれ得意の技を奉納した。引き続き香取神宮境内の梅木山不断所にある劍聖飯篠長威斎の墓所をたずね線香をたむけた。

飯篠長威斎家直は一三八七年旧下総国の生まれ。幼少の頃より刀槍の術に優れ、長じて武勇の誉れ高く、六十余才にして香取大神に千日千夜の大願をたて、修行の後「汝、天下劍客の師とならん」との神示を授けられたという。そして、これまで決まった形の無かった武術の世界におい

て、百般にわたる武芸の原型を体系化した、百般にわたる武芸の原型を体系化した日本武道の源流の一つである天真正伝香



取神道流を創始する。そして、その門流には新陰流を開いて柳生に教えた上泉伊勢守、鹿島の塚原卜伝、松本備前守、諸岡一羽斎らの著名な剣士がおり、軍師として有名な竹中半兵衛、伊達家の家老片倉小十郎、また幕末の実践剣として知られる鹿兒島の示現流も神道流の門より出た流派とされている。

香取神宮より南東約一〇キロの所に、日本の古流道場では一番古いといわれる香取神道流道場がある。出迎えてくれた飯篠家宗家二十代飯篠快貞氏は神之田師範と四十数年來の知己で、道場に押し掛けた一同を前に、道場の由来説明の後、茶菓の接待をして下さった。

道場の広さは二間半×四間(桁行五間)。修行者、指導者は互いに陰になり陽になって、黙々と修行に専念したと思われる。道場の広さがそれを物語っている。また、壁面には杖・棍棒・薙刀・槍が順序よく水平に架けられ

もう一面の壁には各種木刀がびっしりと架けられていた。その中の一振を手を取ってみると物打ち部分三〜四寸ばかり荒々しくそげ立っていた。恐らく立木等を相手に一撃必殺の技を磨いたのであろうと推察される。

武術は戦いの手段であるが、繰り返しの理法にあった技を修練することによって自然に正しい心が、武の徳である謙讓の精神が養成されるという。そうでなければ、そこに残るのはただの暴力にすぎない。人間的な情に包容された武が真の武道であり戦わずして平和を達成することが真の勝利であるとし、それが「平法」であると流祖飯篠家直は教えたという。道場をあとにするとき、アメリカからきた日本の古武道愛好者の一人が「この道場で使われている木材はアメリカ建国よりも古い」と感慨深げにつぶやいたのは印象的であった。

(住田 克己)

『参考文献』

月刊誌「武道」二〇〇八年十月号

日本武道館発行

無形文化財 香取神道流(一卷)

大竹利典著

別冊歴史読本「秘伝のすべて」

新人物往来社発行

香取市指定文化財追録

